

# 重要文化財 紅葉谷川庭園砂防施設



秋の第一号砂防堰堤

戦後土木施設として  
初めての重要文化財

紅葉谷川庭園砂防施設は意匠的に優秀で歴史的価値の  
高いものとして、戦後につくられた土木施設で全国初の『重要文化財』に指定された全長688mの流路工です。流路工沿いを散策すると床固工や砂防堰堤を見ることができます。見どころを書いた全6種類ある重要文化財指定記念の『砂防カード』を弥山展望台で無料配布しています。



# 砂防カード



重要文化財指定記念 砂防カード（通常版）



重要文化財指定記念 砂防カード（限定版）

## 重要文化財の見どころを書いた6種類の砂防カード

重要文化財の見どころを書いた全6種類の『砂防カード』を、2か月ごとに1種類ずつ<sup>みせん</sup>弥山展望台で無料配布します!!

また、重要文化財の指定を記念して、先着1,000名に『砂防カード（限定版）』を配布します。砂防カード（限定版）は、なくなり次第、配布を終了し、砂防カード（通常版）の配布に切り替わりますので、お早めにお越しください。

※ 砂防カードの配布は、2か月ごとに一人1種類（1枚）とし、お一人様、最大で計6種類（6枚）まで受け取ることができます。

※配布開始日は、コロナウイルス感染拡大等を踏まえ別途お知らせします。

（令和3年3月1日から砂防カードの配布を開始しました。）

## 厳島の歴史的風致との調和が図られた砂防施設

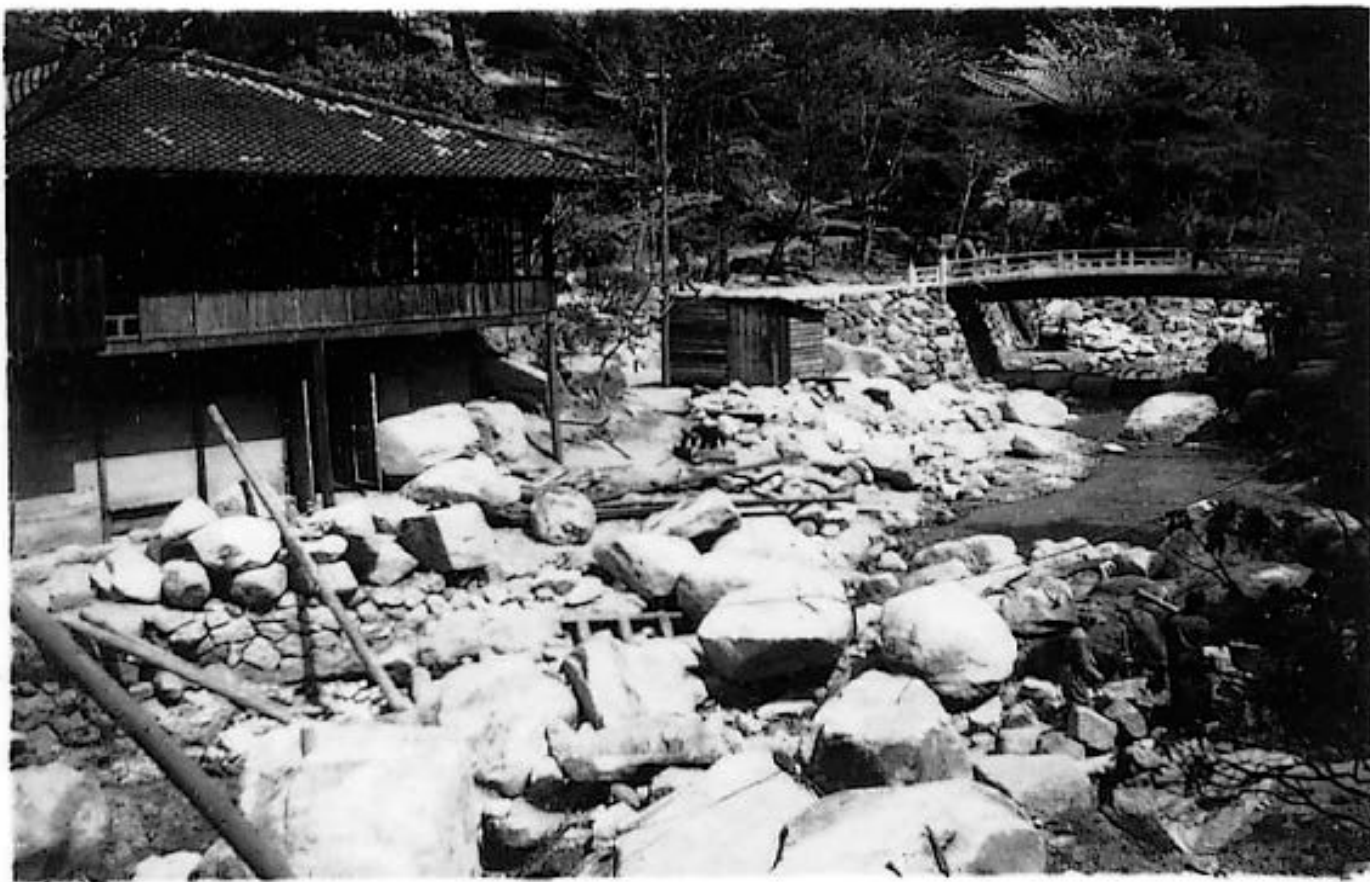


紅葉橋下流の流れ

戦後の混乱期に国および  
地方政府、GHQが連携し  
実現した砂防施設

弥山<sup>みせん</sup>から厳島神社の背後に流れくだる紅葉谷川に築かれる1945年の枕崎台風<sup>まくらぎたいふう</sup>で被災した『史跡  
名勝厳島』の災害復旧事業として、1948年着工、1950年に竣工<sup>しゅんこう</sup>しました。  
砂防と庭園の専門家の協働により、土石流によって堆積した巨石を巧みに利用しながら、紅葉の名  
所として知られる紅葉谷公園の風景や厳島の歴史的風致<sup>ふうち</sup>との調和が図られた砂防施設です。終戦直  
後の混乱に国および地方政府と連合軍最高司令官総司令部が連携して実現した災害復旧としても重  
要な施設です。

## 昭和20年枕崎台風による被害



紅葉橋下流の被災状況（※1）

終戦直後に日本を  
縦断した台風

枕崎台風<sup>まくらぎたいふう</sup>は、1945年9月17日14時頃、鹿児島県枕崎市付近に上陸しました。上陸後の台風は  
北東に進み、広島では最大風速30.2m/sを観測する猛烈な風が吹き、総雨量218.7mm、最大時間  
雨量57.1mmを記録しました。終戦後間もないことで気象情報も少なかったことや防災体制も十分  
でなかったため各地で大きな被害が発生し、特に広島県では2,000名を超える死者・行方不明者が  
出ました。厳島では紅葉谷川、白糸川、大元川で土石流災害が発生しました。

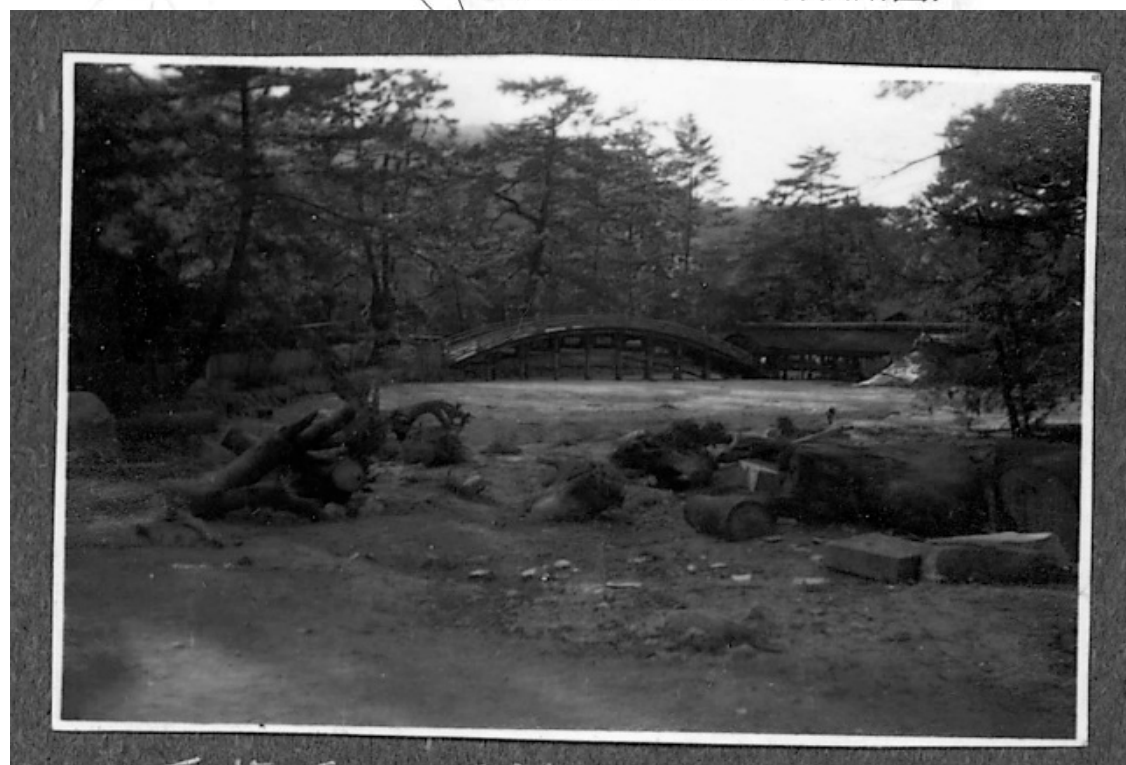
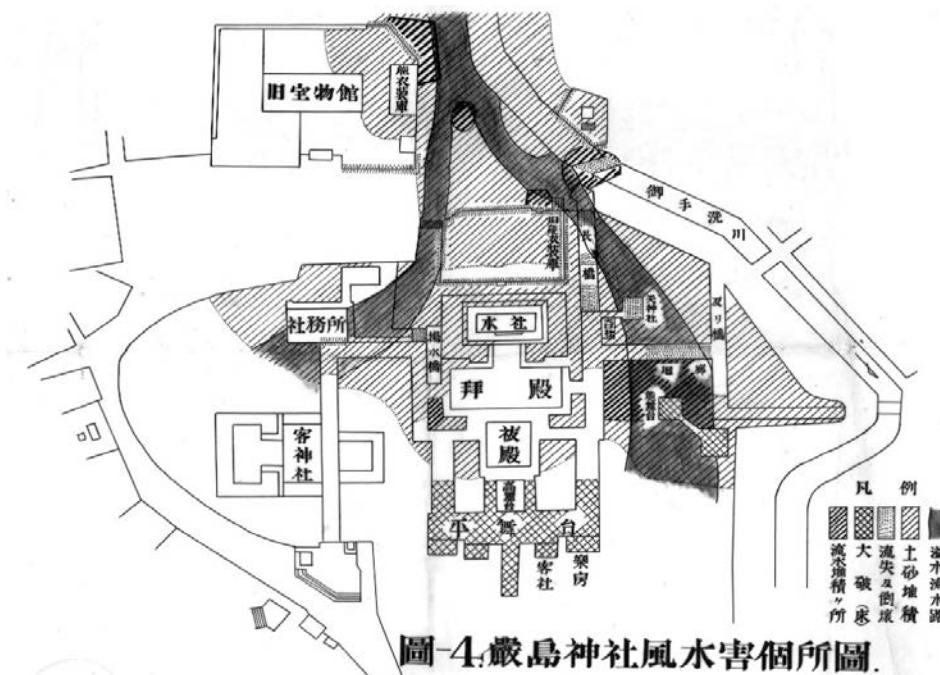
# 巖島神社の被害



反橋・天神社・大國神社付近〔昭和20年9月撮影〕（※1）

## 土砂と流木に埋没した巖島神社

紅葉谷川周辺は1934年3月13日付で砂防指定地に指定され、その後、練積の砂防堰堤を築きましたが、枕崎台風で発生した土石流を抑え込むことはできず、巨石や流木が中下流部と巖島神社境内に流入しました。災害復旧事業では16,000m<sup>3</sup>の浚渫が行われました。

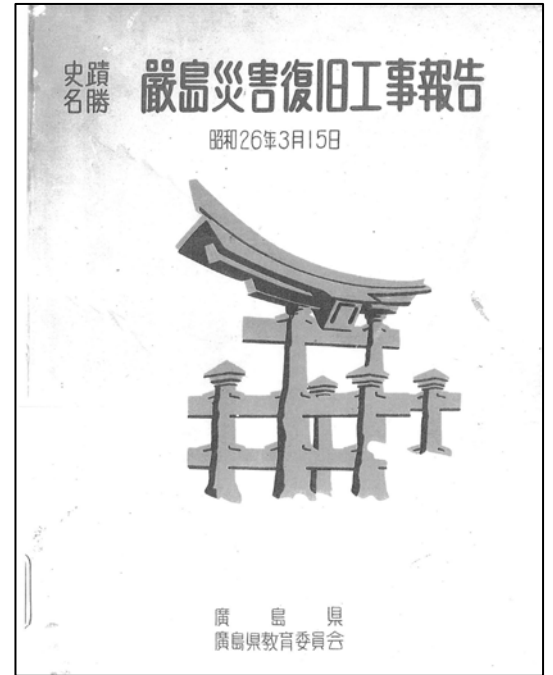


反橋東側天神社付近〔昭和21年1月撮影〕（※1）

# 土石流災害からの復旧



(左) 史跡名勝厳島災害復旧委員会発会式記念撮影 (※2)



(右) 史跡名勝厳島災害復旧工事報告書 (※2)

## 史跡名勝 厳島災害復旧事業委員会の 設置と復旧事業

紅葉谷川と白糸川の復旧工事に際し、史跡名勝にふさわしい工事を実施することを目的に『史跡名勝厳島災害復旧事業委員会』が設置されました。復旧工事では現場の石を重機を用いずに運搬して、加工を施さないまま構造物のコンクリート面が露出しないよう野面積み、施工には庭師を用いるなどの方針がとられました。

## 紅葉谷川の砂防施設



紅葉橋上流の流れ

## 土石流災害から厳島を守る

紅葉谷川は土石流によって流されてきた巨礫や岩盤の露頭部分を活かして段差をつくり、流れを緩やかにしています。この段差は大雨が降った時には川の勢いを減じ、溪流の溪床・溪岸の侵食を抑制します。

また、1948年から1950年に行われた復旧工事では流路工820m、砂防堰堤7基と床固工4基が整備され、現在、庭園砂防区間688m、砂防堰堤5基が現存・確認され、今も史跡名勝厳島を土石流災害から守り続けています。

## 石の運搬

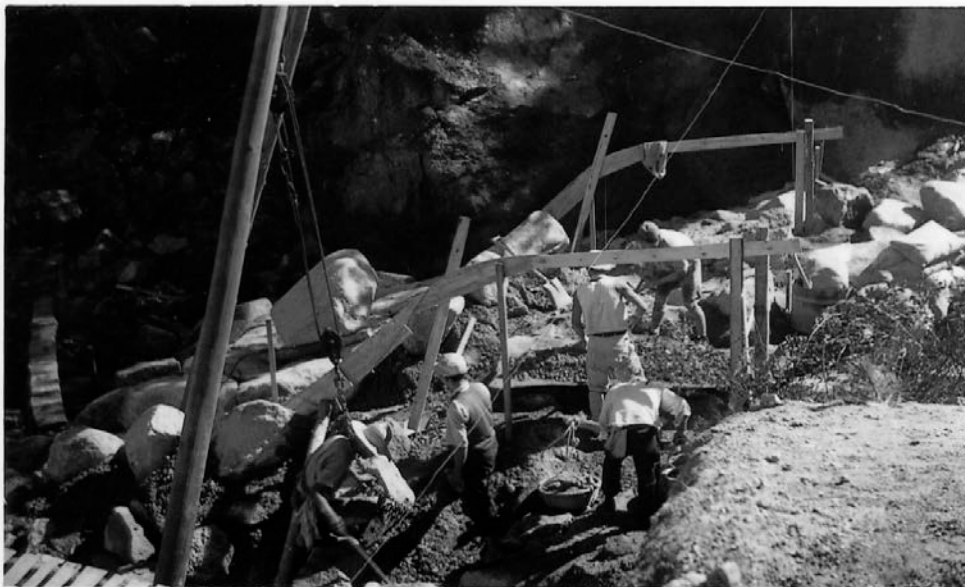


紅葉橋上流の流路工の工事状況（※1）

### かぐらさんを使った石運搬

巨石を動かすには『かぐらさん』を利用しています。三本の木を立てて、チェーンブロックで石材を移動させます。庭師に仕事をしてもらい、石屋さんものみや金槌は使用せず、巨石や大小の石礫を野面のまま使用しています。

## コンクリートの打設



1949年の第五堰堤の工事状況（※1）



現在の第五号堰堤

### コンクリートを利用した砂防堰堤の築造

木材で丁張を設置し、現地でコンクリートを練り混ぜて堰堤を築造し、コンクリートの面が目につれないように野面石で包んでいます。

つげたり  
**附・関係資料 86点**



附指定の一部

**重要文化財となる根拠を示す資料**

砂防堰堤の寸法は『昭和二十四年史跡名勝厳島災害復旧事業設計書』及び付図により確認されています。広島県が保管する史跡名勝厳島災害復旧事業に係る文章および図面は、紅葉谷川庭園砂防施設の事業及び設計の実態を知るための貴重な史料として86点が附指定<sup>※3</sup>されています。

【出典】

- ※1 昭和20年代 砂防災害写真集（広島県土木建築部砂防課、平成10年3月）
- ※2 史跡名勝厳島災害復旧工事報告書（広島県、昭和26年3月）
- ※3 重要文化財の価値を証明したり、その根拠となるものを国が指定